

事業名 兵庫県立神戸高等学校 校舎第2期建築工事

創立100年を超える伝統校の顔としての校舎を保存活用することで、これまで以上に在校生、職員、数多くの卒業生一同が学舎に愛着と誇りを持つことができ、また、地域の顔、文化的価値として貢献していることで利用者等の評価の高い事業

受賞機関 兵庫県県土整備部まちづくり局
営繕課
兵庫県県土整備部まちづくり局
設備課

事業実施期間 平成12年9月12日～平成14年2月28日
事業費 1,758百万円

事業等の特徴

旧校舎において最も象徴的な玄関ホール部分、正門等を保全改修し、設備等の現代的機能を満たしつつ、伝統のある旧校舎のイメージをできる限り残した計画とした事業である。また、建替え部分には屋上緑化を施したほか、エレベータ、渡り廊下を設けて導線をスムーズになるよう計画している。

事業の概要と利用者等の評価

旧校舎において最も象徴的であった玄関ホール部分、正門等を保存改修し、設備等の現代的機能を満たしつつ、本校の伝統である旧校舎のイメージをできる限り残す計画とした。その他の部分は解体し、旧校舎の意匠を踏襲したRC造5階建の校舎を新築し、保存部分と接続させ、建物全体の調和を図った。建物の配置は基本的に変えず、自然をできるだけ残すようにし、南北に高低差のある敷地のため、福祉的配慮も踏まえ、建物にエレベータ、渡り廊下を設け、生徒の動線がスムーズになるように計画した。

当初の全面建替案に対して「保存再利用」を求める運動が起こり、諸団体と何度も意見交換を行った。その結果、最もシンボリックな正面玄関部分を補強のうえ保存し、その他の部分を校舎のイメージを活かしながら改築する計画となった。設計では建物のディテールまで実測し、建替え部分のデザインにも活用した。施工段階においては、損傷が少ない部位はそのまま残すように変更するなど、現場で再度「保存活用」を意識して監理を行った。

地元住民、教育委員会、学校関係者等、施工者との連携も順調で、円滑な協力体制を築くことができ、満足のいく保存活用ができたと思われる。

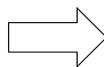
教職員に対するアンケートでは保存後の外観デザインに69%が満足しているとの結果が得られ、また、卒業生による校舎見学会が何度も開催され、近隣の学校からも見学依頼があるなど、関係者等の高い関心が得られた事業である。

審査委員会委員の意見等

- ・歴史的価値のある建物の一部を活かした建築工事という意味でカテゴリー的には新しいものではないが、完成度が高く、好例となるものである。
- ・創立100年を超える伝統校の校舎を保存改修することで、在校生、職員等が愛着を持つことができ、地域の顔として市民に親しめる校舎が残せたことは評価できる。
- ・箱物施設のリニューアルのモデルとなりうる事例で、工法にも工夫が見られる。教職員だけでなく、OBや在校生の評価も調査して欲しかった。
- ・近年話題の補修、復元等は時間をかけていくべきものであり、このようなモデルをアピールすることから始めたいと思う。



旧本館正面外観（保存改修前）



本館正面外観（保存改修後）